

## 新春講話「描かれた本牧・根岸」

講師：猿渡顧問

本会顧問の猿渡さんに、江戸時代から昭和にかけて絵画や写真で描かれてきた本牧と根岸の風景について、多数のスライドとともにご講話いただきました。

江戸時代の浮世絵では葛飾北斎《賀奈川沖本杵之図》、明治時代の油彩では高橋由一《本牧海岸》や五姓田義松《横浜亀ノ橋通》などに本牧の海岸や街並みが描かれ、時代が下ると三溪園や根岸競馬場（現在の根岸森林公園）が画家や写真家たちの題材となりました。幕末の作品では本牧十二天の山の近くに離れ山が見えますが、その山は埋め立ての際に切り崩されて現在は残っていません。作品のモチーフを時代順に追っていくと、牛肉を食べる外国人のために 1865（慶應元）年に千代崎河口に設置された屠牛場、第二次世界大戦後の焼け跡、進駐軍の軍人やヨットハウス、住む場所を失った日本人が集まって住んだバラックなどがあり、この地域が乗り越えてきた歴史が感じられました。



たくさんのスライドを見ました。

## 横須賀の夢窓疎石

発表者：速水会員、野中会員、廣島会員



去る2017年9月15日に実施された研究会有志による横須賀ツアーについて報告がありました。今回は4月の箱根・小田原ツアーで案内してくださった田代元箱根強羅公園園長もご一緒です。米海軍横須賀基地内にある「泊船庵史蹟」の碑は、夢窓疎石が1319年から1323年までこの地に住んだことを伝えています。そして今は衣笠にある、夢窓疎石護持仏の十一面観世音を本尊とする光心寺を訪ねました。茶話会では田代さんが作ってくださった茶杓、銘「走水」にて高橋会員と野中会員がお点前を披露しました。小田原と横須賀にも原三溪をめぐる歴史と人の輪が広がっています。